

あすぴあ登録団体の紹介

こんな活動を
しています

vol.
15

登録団体の中で取材を希望する団体は
あすぴあまでお知らせください。
広報部会の部員が伺います！

NPO法人こだいらソーラー

東日本大震災の原発事故をきっかけに設立されたNPO、こだいらソーラー。太陽光による市民発電所づくりに取り組んできました。その活動の中の「ベランダ発電工作セミナー」と「市民共同発電所5号機『むさし』開所式」を見学しました。



《今年5月24日に稼働の市民共同発電所5号機『むさし』》

中央公民館の工作室では、スタッフの指導の下、10数名の男女がケーブルをつなぎ部品を組み立てていました。1枚の太陽光パネルから始められるミニ発電。約6時間充電

すると、ノートパソコンなら3時間余り使用可能なので、停電になった時に自前の電気を持っていることになります。すでにミニ発電している人も訪れ、使用中のケアも行き届いているようでした。

広い屋根を借り、資金を出し合ってつくった市民発電所は、学園西町の1号機、津田町の2号機『やまびこ』、小川町の3号機『未来』、東村山市の4号機『めぐる』です。そして今年の6月には、仲町の5号機『むさし』の開所式があり、市長さんはじめ多くの方が集い、太陽光発電の電気で沸かした紅茶も振舞われました。「小平市は、太陽光発電日本一を目指しています。市民発電所の電気が地域の送配電網に流れ、近所ではこの電気を使っていることになります。災害時には非常用の電気を供給する拠点にもなります。市民から集めたお金は、いずれ、利子をつけて皆さんにお返しいたします」と、代表の都甲公子さんは話しました。

このように、こだいらソーラーは、セミナー、講演会、見学会を小平市との協働事業で行うなど、地域に役立つ太陽光発電を知ってもらうために多彩な活動を展開しています。

また、各地の市民発電所団体とのネットワークによって、情報交換や課題の共有などを意欲的に行っています。

今年の4月から電力自由化が始まり、電力会社を選べるようになりました。何からつくられた電気であるかということも選択肢のひとつ。こだいらソーラーは、電気を大切に使う省エネと発電時に環境汚染物質を発生させないクリーンな再生エネルギーを選ぶことを市民に提案しています。(Y)

DATA

活動日●不定期
活動場所●小平市内
会員数●55人
連絡先●kodaira.solar@gmail.com
ホームページ●http://kodairasolar.wordpress.com



▲ 小平市役所ロビーでの省エネキャンペーン。手前のソーラークッカーでは、お湯、目玉焼き、煮物料理等ができます

こだいら・こども・こそだてプラットフォーム ここぷらっと

地域の支え合いの中で子どもがいきいきと育つ。

小平がそんな街になつたらいいな、と願うみんながゆるやかにつながるプラットフォームを見学しました。

会場に最初に現れたのは、「ここぷらっと」の代表、竹村雅裕さん。児童養護施設「二葉むさしが丘学園」に勤務している竹村さんは、虐待などの様々な事情で児童養護施設に来る子どもたちを見ていて、「施設で生活をしなければならない子どもを少しでも減らしたい」と考えるようになり、一昨年12月に立ち上げたのが「ここぷらっと」です。

月に1度、小平の子ども・子育てに関心のある市民と子ども・子育てを支える活動をしている市民が集まり、お菓子を食べながら2時間ほどおしゃべりをする「ここトーク！」—この日は午後6時半から始まりました。

最初に参加者全員が自己紹介とともに、子ども・子育てに関して「今、関心のあること」を話し、その中から1つのテーマを選んで参加者全員で話し合います。この日は、「産後のお母さんのケア」について話し合いました。

次は、参加者が2つのグループに分かれての話し合い。テーブルにある白紙に発案者がテーマを書き、他の人たちが意見を述べ、最後に発案者が感想を述べます。この日は「働くお母さんの支援」と「小平の子どもの生育環境をよくすためには」について話し合われ、各テーブルで21～32の意見が出ました。



ここぷらっとでは、9月に第1回学習会「ここゼミ」を行った後、11月20日(日)午前11時から午後4時まで、中央公民館で「ここフェス！」*を開催します。子育て中の親を対象にした講演会、子ども・子育て支援をする団体の展示だけでなく、ママ友、パパ友づくりイベント、キッズ・イベントもあるビッグ・イベントです。そこから何が生まれるか？注目されます。(K)

*平成28年度小平市市民活動支援公募事業

DATA

活動●ここゼミ(9月、2月)、ここトーク！(10月、12月、1月)
活動場所●中央公民館
会員数●11人
事務局●cocoplat.kodaira@gmail.com
フェイスブック●https://www.facebook.com/cocoplat.kodaira/

世界の歴史を学ぶ会

その国の歴史を学ぶことは、そこに暮らす人々の生活や考え方や人となりを知ることです。さまざまな国の人たちを探訪し、イメージする学習をつづけている、「世界の歴史を学ぶ会」の定例学習会を探訪しました。

去年から2年越しの、「朝鮮」を学ぶ14回目の講義がはじまりました。

「前回の復習になりますが、太平洋戦争が泥沼化するにしたがって、日本の朝鮮に対する物的、人的な動員要請は急速に増大して、動員された朝鮮人達の逃亡や急業を防ぐために皇民化政策が進んだんですが、例えば、創氏改名は1940年に実施されています」

「創氏改名」聞き覚えのある言葉を聞いて、中学時代の歴史の時間がよみがえります。「朝鮮国民の父系血統の“姓”を、家の呼称である“氏”に変更させるもので、日本の戸籍と同じく家単位の制度にして、当時の日本政府がコントロールしやすい社会を朝鮮に作ろうとしたわけです。」

この会が誕生した18年前から講師をお願いしているという高校の歴史教師、斎藤先生の講義はよく通る声と明快な状況分析で、時代の流れが面白いように頭に入ります。



世の中で起こったことはどんな些細なものでも、必ずどこかで繋がっている。「世界の歴史を学ぶ会」の活動の目的はそれを学び、理解すること。メンバーは現在11名。数は少ないけれど、みんな世の中の動きに敏感で好奇心いっぱい。講義の最中でも、疑問に思ったことはその場で質問。斎藤先生は講義が中断するのをものともせず、1つ1つ丁寧に答えます。とはいえ、質問に回答する経過の中で、それまでの内容がシンクロしていく、いつのまにか枝葉が太い幹になるように、資料に書かれていません、深い理解の域に会員達をひっぱりこむ話術は見事。まさに歴史を学ぶ醍醐味を感じさせます。斎藤先生の授業を、もっと多感な年頃に受けてみたかった、というのが正直な感想でした。

「昔、じいさんがやってたように畠の上にバサッと新聞をひろげて、紙面を俯瞰していると、関係ないように見える出来事でも、みんなどこかで繋がっているのがわかる。これの次にこれがあって、これが起きたからあっちのあれに意味が出てくる。そういう新聞の読み方、若い人们をして欲しいんですよ」講義の合間の雑談にも斎藤先生の歴史観が感じられます。(S)

DATA

活動日●毎月第2土曜日、午後1時～3時(8月のぞく)
連絡先●042-344-3478(谷尾)講座の見学は大歓迎！